



横浜陶芸友の会だより

第 174 号
令和元年
7 月 20 日発行

タンポポのように

横浜陶芸友の会 会長 高橋 光男

40 回目の作品展も盛況の内に終わることができましたことは、偏に会員の皆様の努力と協力の賜物と思えます。

私はタンポポが好きです。
春の道端に咲いているので



ただの雑草のイメージかもしれませんが、タンポポにはすごい粘り強さがあると思います。人に何度踏まれようと美しく咲き誇っています。その後も綿毛になり、風に乗って飛んでゆき、また新たに種子を残します。「雑草魂」という言葉がぴったりだと思えます。人に例えると何度失敗しようとも、立ち直り、そしてまた挑戦する。
そんなイメージです。

一輪のタンポポのように、皆さんで会員を増やす種をまいて会員を増やしましょう。

総務部より

「総会の報告」

5 月 18 日（土） 15 時より、杉田地区センターにて 10 名の会員が集まり、各議案についての報告と審議を行いました。

- ◎ 会長挨拶
 - ◎ 議長・書記の選出
 - ◎ 議事
 - 平成 30 年度事業報告
 - 平成 30 年度会計決算報告・会計監査報告
 - 令和元年度事業計画
 - 令和元年度会計予算
 - 役員の選出と改選
 - ◎ その他
 - 第 41 回作品展（2020 年）の計画
 - 陶芸教室に友の会作品展を作品発表の場として呼びかけてはどうか？
- ※今年度入会された古河内滋子さんの作品展が楽しみです。

次回の役員会

（予定）
10 月 12 日（土） 15 時 30 分より
※ 8 月に会場決定後各部長に
連絡いたします
（杉田地区センター 4 階 集会室 A）

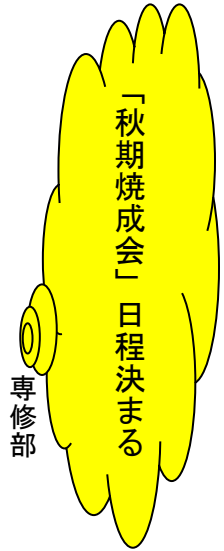
「役員会の報告」

4 月 27 日（土） 15 時 30 分より、会長、副会長、各役員 11 名で総会に向けて話し合いました。

- ・ 平成 30 年度事業報告
- 事業部 「第 40 回作品展」の報告
- 専修部 秋期焼成会の報告
- 広報部 友の会たより 年 3 回発行
- 会計部 平成 29 年度決算報告
- 総務部 「友の会たより」の発送
- ・ 令和元年度活動予定
- 事業部 「第 41 回作品展」の会場
※ 7 月に申し込む
- ☆ 特設コーナー課題 「一輪挿し」
- 専修部 秋期焼成会 「ねずみ志野」
※ 7 月号に日程を掲載します
- 広報部 年 3 回 「友の会たより」発行
- 会計部 平成 30 年度予算額
- 総務部 「友の会たより」の発送・名簿作成

平成 31 年度決算書・2019 年度予算書

※年度表記は改元前なので西暦表示をしています



友の会だより「4月号」に掲載されたように今年の焼成会は「鼠志野」です。



9月29日(日)

受付、化粧掛け

(場所) 関内技能文化会館

(時間) 午前10時集合〜12時

*乾燥済み作品をお持ちください。

大物製作された方は可能であれば、素焼きしてきた方が安心かもしれません。

10月13日(日)【釉掛け】

(場所) 井上宅

(時間) 午前10時集合〜

(引き渡し日)

参加重量によって引き渡し日が確定

*予約制です。まだ予約していない方は必ずお願いします。

予約方法

- ①参加希望者氏名
- ②電話、FAX番号
- ③焼成重量(概算で結構です)

*上記ご記入していただき、郵送またはFAXにてお願いいたします。

(送付先)

事業部より

○第40回「作品展」を

平成31年1月8日(火)〜13日(日)

会場「かなつくホール」にて行いました。

(詳細は4月号に掲載)

○第41回「作品展」開催日 決定

(期日) 令和2年1月14日(火)〜19日(日)

(会場) 「かなつくホール」3階A室

(特設コーナー) 課題は「一輪挿し」です。

※名前プレートを準備するために、「作品展参加申し込み」の時点で特設コーナーへの参加意思を必ずお書きください。

☆「作品展」の詳細については次回11月号発送時に同封いたします。

『第40回 作品展』紹介②

出展作品第2弾を、ご紹介いたします。思い出しながらご覧ください。

「今年の作品」 鈴木貴久



「棲取草文錆鉄天火皿」

(錆鉄); 中国黄土+二酸化マンガ (1:1)

剥離しやすい時は CMC 混入可

(草文); 暗いネイビーブルー釉

○まず 棲取草文錆鉄天火皿について伺いました

・持ち手に引かれた線はマスキングテープによる物で、錆鉄を塗ってからはがした物です。

錆鉄は、黄土とマンガンを混ぜた泥みみたいな物なので粘着性を増すために CMC を混ぜてあります。

持ち手は縁を、酒のキャップをポンス代わりに使い穴を開けて削った物です。

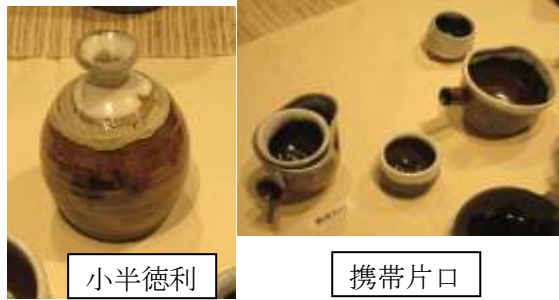
後からつけた物は取れやすく火傷をした人

もいるようです。

最初にこの皿は「サラダ用」と「取り皿」として作ったものの、ちよつと小さくて中間の物を3個作りました。

暗いネイビーブルーのレシピは昨年度に紹介されていますが、再度掲載いたします。

- ・釜戸長石 43
 - ・カオリン 12
 - ・酸化鉄 1.0
 - ・石灰石 25
 - ・酸化コバルト 1.5
 - ・珪石 20
- (Hatchment の配合)



「朝鮮唐津酒器」
 わら灰+くぬぎ灰+釜戸長石 (4. 5:2. 5:3)
 ※厚さ5mm程度に厚掛け
 (飴釉)土灰+わら灰+珪石+美濃赤粘土
 (5 : 0.7 : 2 : 3)に外割で四三酸化鉄7%

・〇次に「小半徳利」について伺いました
皆さん、この漢字 読めましたか？

・この漢字は「こなからとつくり」と読みます。「半(なから)」とは五合の事。その半分
の二合半を「小半(こなから)」と言うそうで

す。野毛の居酒屋に「こなから」と言う店があり「どういう意味ですか？」と聞いたところ教えてくれたそうです。

ちなみに、鈴木さんは450gの土で450CC入る徳利を挽くそうですが、この位入らないと「小半徳利」とは呼べないそうです。皆さまも、挑戦してみてください。

「和紙染め呉須」の作品 窪田由紀子



「陶箱」「大皿(Pasta皿)」「陶箱(大)長方形」「陶箱(小)長方形」
 ・半磁土 ・透明釉 ・和紙染め呉須 「Pasta皿」 ・半磁土 ・透明釉
 「飾り皿(ザク口)」 ・黒土 ・白化粧(透明釉)

○「和紙染め」について制作紹介で説明をしてくれました。



からはみ出ることはありません。

濃くしたい時は別の細い筆で型紙に乗せていきます。

紙はお茶で使う懐紙だと繰り返し使えます。葉脈は線描きでひっかいて描きます。

乾いてからピンセットで紙をはがし透明釉をかけて焼成します。

絵の下手な人でも失敗しません。

今回も「暮らしのうつわ」部門のアマチュアで入選しました。前は「部門賞」をいただきました。

今、和紙染にハマっています。

ヤフーで「和紙染め 暮らしのうつわ」を検索したら私の作品が紹介されていました。皆さんも一度検索してみてください。

「今年の作品」

本橋昭彦



- 「大壺」・大原(細)1 ・信楽並漉1 ・穴窯焼成・自然釉
- 「輪花大鉢」・備前土7 ・信楽並漉3 ・穴窯焼成・自然釉
- 「竹花生」・大原粗土1 ・伊賀細土2 ・穴窯焼成 ・自然釉
- 「俎皿」・大原(細)1 ・篠原(細)1 ・穴窯焼成 ・自然釉

○今年の作品についてお話を伺いました

・「人生最後の穴窯をやるう」と言うので焼いた物なのですが、行ったら赤松が無いので堅木で焼きました。燻ぎが残るので良いと言え

大壺は三日かけて紐を積み上げロクロを回



して仕上げました。金色に光る所があったり緋色やビードロの流れもあり、いいのが取れました。輪花鉢の土は穴窯なので備前7に信楽3を混ぜて窯の一番奥に入れた物です。俎皿は2枚重ねて焼いたので、底に灰がたっぷり掛かってきれいだが、表も緋色が綺麗に出ました。

「今年の作品」

深川貴子



「皿」3点

- ①・特赤土 ・還元焼成 ・透明釉
- ②・特赤土 ・還元焼成 ・ミカンの木灰釉
- ③・特赤土 ・還元焼成 ・椿の木灰釉

○お話を伺う事ができませんでした。色々な釉薬を研究しているようですね。次回が楽しみです。

「今年の作品」

出淵儂江子

○大皿の絵がとても見事なので伺いました



- 「大皿」・磁器土 ・九谷色絵 ・透明釉
- 「中鉢」2点 ・磁器土 ・呉須絵 ・透明釉
- 「中井鉢」2点 ・信楽赤土 ・透明釉 ・還元焼成
- 「小皿」2点 ・信楽赤土 ・型押し模様 ・白マット釉



・この絵はお手本を見ながら描きました。昔、日本画を少しやっていて、その後陶芸にハマってやり出したが

「絵付けだけはやるう」と思っていました。呉須が一番好きなのですが、くどいイメージのあった「九谷」が窯場見学でその良さに魅せられました。

この作品は「九谷の先生」に教わった通りの方法で焼成した物で「自分の絵になっているかな」と思っています。

今年のは体の調子が悪く、何もやる気がなかったのですが、秋になってちよっとやる気が出ました。

陶陶さん

異常気象が続き
ますが乗り切り
ましょう!

第 96 号

あかほし



ホームページもチェック!!

横浜陶芸友の会

検索

<http://www20.atpages.jp/tomonoka/>

横浜陶芸友の会だより
第 174 号

(令和元年 7 月 20 日発行)



- 「花入」・信楽白土・黒天目釉・黄土マツト
- 「はがき掛」・黒みかげ土・白萩釉
- 「角皿」・黒みかげ土・白萩釉
- 「箸置」・黒みかげ土・白萩釉
- 「ミニ花びん」・信楽白土・黄土マツト
- 「犬」・信楽白土・黄土マツト
- 「長皿」・信楽赤土・白萩釉
- 「湯呑」2点・信楽白土・白萩釉、乳緑釉

「今年の作品」

池見千枝子



・これは、水色と白のビー玉が溶けた物で、釉薬ではありません。二つのガラスが綺麗に分かれて溶けました。

・この子犬は、型を使いました。大きい親犬は手作りです。

○この皿にたまった釉薬について何うと

・この模様は、洗濯用のネットを写し取った物に白萩釉をかけました。くり抜いた粘土で箸置きや皿も作りました。無駄が無いでしょう。

○まず「はがき掛け」や「箸置き」の模様が気になったので伺いました



【編集後記】

- ・作陶を始めようと思いつながらぐずぐずと、もう七月に入りました。
- ・作品展の皆さんの写真や記事を読むとサア頑張つて作陶を始めようと励まされます。
- 季楽軒
- ・去年の梅雨と打って変わって今年の梅雨は日照時間も短く鬱陶しい毎日が続いています。作品の乾燥にも時間がかかります。
- この会報が発行される頃には梅雨は明けているといいのですが。
- 大日方
- ・7月号は作品展会場の抽選結果を待つて発行するため、発行が遅くなりました。
- ・ご了承ください。
- 今年の専修部の課題「ねずみ志野」は昨年度の作品展で予告の作品が出ていました。
- 今年こそは参加して、あの様な素敵な作品を、作ってみたいと思っています。

鍋島